

幼稚園

平成 14 年 度

教育研究員研究報告書

幼 稚 園

東京都教職員研修センター

平成14年度

教育研究員名簿

地区名	幼稚園名	氏名
新宿	早稲田	堀江なごみ
新宿	花園	増田秀子
文京	明化	渡部文子
台東	台桜	矢崎宝子
墨田	立花	◎ 近藤ゆき江
目黒	げっこうはら	工藤千恵子
渋谷	本町	木村多恵子
中野	みずのとう	新谷晶子
江戸川	船堀	栗原淳子
日野	第七	○ 石川星子

◎ 世話人 ○ 副世話人

担当 東京都教職員研修センター指導主事 高木 基行

目 次

I 主題設定の理由	2
II 研究の内容・方法	
1 研究の概要	2
2 研究主題のとらえ方	3
(1) 幼児にとっての遊びの楽しさ	3
(2) 友達とのかかわりの中で互いの思いを実現する幼児の姿	3
(3) 教師の果たすべき役割	4
3 事例研究	5
事例1 大人とかかわることで安心して自分の動きを出し始める (3年保育3歳児6月)	6
事例2 興味をもった場でのかかわりの中で友達存在に気づき始める (3年保育3歳児6月)	10
事例3 新しく入園した友達とのかかわりの中で自分の思いの出し方を模索する (3年保育4歳児6月)	12
事例4 友達とかかわる楽しさを感じ、相手の言動を受け止めようとする (2年保育4歳児10月)	16
事例5 相手の思いにかかわりなく自分の思いを出していた幼児が、友達のよさ を感じながら自分の思いを実現していくことを楽しむようになる (3年保育5歳児6月～9月)	18
①相手の言動にかかわりなく、自分の思いを出す(5歳児6月)	
②かかわりの中で友達のよさを感じ、共に遊びを楽しもうとする(5歳児9月)	
III まとめと今後の課題	
1 主題に迫る教師の役割	23
2 今後の課題	24

幼児が友達との遊びを楽しみ、互いの思いを実現していくための教師の役割

I 主題設定の理由

私たちは、幼稚園生活の中で一人一人の幼児が、身近な環境に興味関心をもって自分からかかわり、それが楽しいと感じ夢中になって遊んでほしいと願っている。また、幼稚園という集団生活の場で、同じ遊びに興味をもった友達や気持ちを通して遊ぶ友達と共感したり、時には思い通りにならない葛藤体験をしたりすることを通して、他者に気付き互いに思いを出し合いながら調整し、実現することの楽しさを味わってほしいと考えている。

しかし、近年幼児を取り巻く環境は変化し、入園前に幼児が自ら環境に働き掛け自分なりに試したり工夫したりしながら遊ぶ体験が減少している。また、核家族化や少子化、地域環境の変化などにより人とかかわる機会も少なくなっている。そのため、入園してくる幼児の姿を見ると、ありのままの自分を出せない、大人の指示を待って行動し自分で判断することができない、相手の気持ちに気付かない、自分をコントロールできないなどの姿が見られる。このような実態から、的確な幼児理解に基づく環境の構成、幼児の活動する姿に応じた適切なかかわりなど、幼児が充実した園生活を送るために教師の果たすべき役割はますます重要になっていると考えた。

そこで、一人一人の幼児が幼稚園生活を送る中で、友達との遊びを楽しみ、互いの思いを実現していくための教師の具体的な役割を探っていきたいと考え、本主題を設定した。

II 研究の内容・方法

1 研究の概要

研究のねらい

- ・友達の中で、一人一人の幼児が自分の思いをどのように実現しようとしているのかを探り、互いの思いを実現していくための教師の役割を明らかにする。



研究の方法

- ・研究保育及び日常の保育実践の記録から、幼児が遊びを楽しむことを通して自分の思いを実現している姿を分析し、幼児の姿に応じた教師の役割を考察する。



研究のまとめ

- ・幼児が友達との遊びを楽しみ、互いの思いを実現していくための教師の役割

2 研究主題のとらえ方

(1) 幼児にとっての遊びの楽しさ

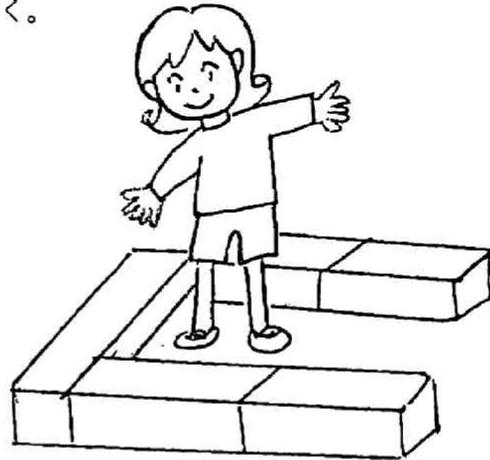
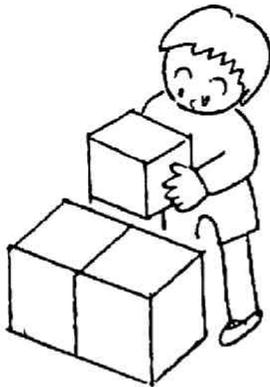
幼児は、本来自分の身近にあるものに興味や関心をもつと自分からかかわろうとする。そして、環境から受ける楽しさや自分から環境に働き掛ける楽しさを感じながら、夢中になって遊ぶ。このような遊びを通して、幼児はその発達に必要な様々な経験をする。

ここでいう「遊びの楽しさ」には、今まで体験したことのないことに出合う時のわくわくするような心のときめき、夢中になって体を動かした後の快い解放感、集中して一つのことに取り組んだ充実感、今まで何度やってもできなかったことができた満足感など様々な要素が考えられる。

遊びの楽しさを感じるまでには、やろうとしたことが思い通りにならないもどかしさ、何度やっても失敗してしまうことからくる挫折感、友達との思いの食い違いによる心の葛藤など、そのことだけ取り上げれば「楽しさ」と直接は結び付かない経験もする。

しかし、どんな時にも自分を見守り支えてくれる大人への信頼感や学級の中に自分の居場所があるという所属感によってもたらされる心の安定を拠り所に、幼児は挫折や葛藤を乗り越えて「遊びの楽しさ」を追求しようとする能動性を発揮する。

幼児は遊びを楽しむことを通して、身近な環境への興味や関心をさらに広げ、自分の思いを実現する喜びを味わい、「主体的に問題を解決する力」「自らを律しつつ他者と協調し思いやる心」など「生きる力」の基礎を培っていく。



(2) 友達とのかかわりの中で互いの思いを実現する幼児の姿

幼稚園は、幼児にとって家庭生活を離れて同世代の幼児と集団生活を営む新しい環境である。入園当初の環境の変化に対するとまどいを経て、保護者に代わる依存の対象として教師への親しみを感じ、家庭とは違った空間、遊具、自然などの環境に慣れてくると、安心して身近な環境にかかわって遊ぶようになる。

幼児は環境とかかわって遊ぶ中で、「こんなことをしたい。」「こうしたらどうなるかな。」など自分なりの思いをもつ。集団生活の場である幼稚園では、たまたま同じものに興味をもったり、互いの動きに関心をもったりしたことをきっかけに、友達と言葉を交わしたり、動きを真似たりするなどのかかわりをもつようになる。

友達とのかかわりの中で、互いに感じる楽しさが重なることで共感したり、「〇〇がしたい。」「△△がほしい。」といった互いの思いの違いからぶつかり合ったりすることを繰り返す。

返す。幼児が一人だけで環境とかかわったり、幼児を「慈しみはぐくむ」対象とみる大人とかかわったりする時には、このような体験をすることはできない。

幼児は、友達とのかかわりを通して、友達と思いを重ねることで共感する喜びを感じたり、友達の思いを知ることによって思いをふくらませる楽しさを知ったりする。一方、自分の思いと友達の思いの違いから、思いが実現できないことへの挫折感や葛藤を体験する。

こうした経験を積み重ねることで、幼児は実現したい自分の思いをよりはっきりと意識し、自分の思いの表し方や実現するための知識や技能を身に付け、見通しをもって行動するようになる。また、相手の思いに気付いて、相手が自分の思いに沿ってくれるよう働き掛け方を工夫する、相手に合わせて自分の思いの出し方を変えていくなど、互いの思いを実現していこうとする。このような過程を経て、幼児は人とかかわり方の基盤となる力を身に付けていく。



(3) 教師の果たすべき役割

以上のような幼児の変容を促すために教師の果たすべき役割は多岐にわたっている。大別して以下の四点の役割が考えられる。

第一に幼児の姿から現在の興味や関心、教師や友達への信頼感や学級の中での存在感、遊びや生活への取り組みの意欲などを受け止め、その発達の課題をとらえ、見通しをもって保育を計画する役割である。

第二にはその発達の課題に即して、学級全体の集団としての育ちも踏まえて適切な環境を構成する役割である。

第三に構成された環境にかかわる幼児の姿に応じた的確な指導や援助を行う役割である。

第四に保育を振り返り、幼児理解、環境の構成、教師のかかわりを見直し、より充実した保育を目指して具体的な改善の手掛かりを明確にして、新たな保育を創造する役割である。

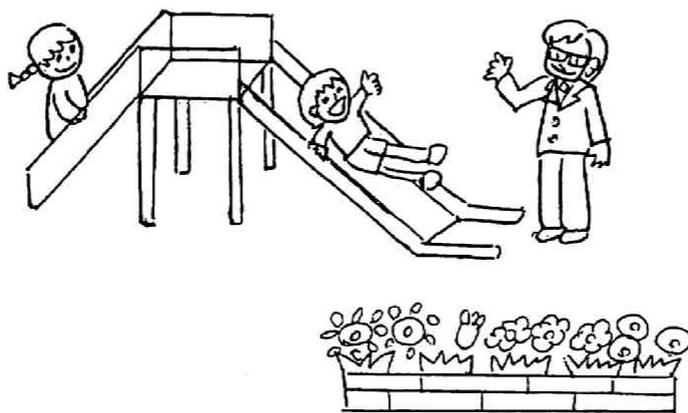
その際、それぞれの教師が個別にこれらの役割を果たすだけでなく、保育内容や方法についての共通理解、一人一人の幼児理解を深めるための情報の検討や共有化、保育にあたっての役割の分担など園全体の教師の協力体制を作り上げることが必要である。

また、幼児は園生活だけでなく、家庭や地域での生活の中で総合的に発達していくことを踏まえて、保護者・地域社会・関係諸機関との連携を進めていくことも、幼稚園の教師として重要な役割となる。

3 事例研究

研究主題に迫るために、以下の手順で事例研究を進めた。

- (1) 研究員在籍園で研究保育を行い、観察対象児の行動観察記録をとる。
- (2) 観察対象児の記録を次の視点から分析する。
 - 興味・関心の対象は何か。
 - 場や物とのかかわり方はどうか。
 - 友達や教師など、人とかかわり方はどうか。
 - 自分の気持ちをどのように表現しているか、相手の言動をどのように受け止めているか。
- (3) 分析結果を、次の3点に沿って考察する。
 - 観察対象児が経験している内容をとらえる。
 - 今後観察対象児に経験させたい内容を明らかにする。
 - そのために必要な教師の役割を次の観点から検討する。
 - ・この場面で、教師はどのような役割を果たすべきであったか。
 - ・今後の幼児の生活を見通して、教師にはどのような役割が求められているか。
- (4) 研究保育によって考察した教師の役割を検証するために、各研究員の実践記録を持ち寄り、上記と同じ視点で分析・考察する。



事例1 大人とかかわることで安心して自分の動きを出し始める（3年保育3歳児6月）

- A児は、担任や園長とかかわって、手をつないだり抱っこしたりすることを求めることが多い。興味をもったことがあると、周りの状況にかかわりなく思いのままに行動する。不安を感じると大声で泣いて大人に援助を求めることがある。

幼児の姿と教師のかかわり	分 析
①A児は、ベランダにいる園長を見付けると、保育室から出て園長と手をつなぎ、歩きながら話をする。	①親しみを感している園長に、自分から働き掛ける。
②園長が他の教師と話を始めると、A児は一人で目の前の滑り台のところに行く。	②園長とかかわることで安心して自分なりの動きを出し始める。
③A児は滑り台に上がるがなかなかすべろうとしない。	
④4歳児が滑り台の階段を上ってくると、A児はそちらを向いて手をばたつかせてる。	④⑤不安を言葉でなく身体の動きで表している。
⑤園長が「Aちゃん、こっちから降りておいで。」と滑り台横から手招きをすると、A児は顔をしかめ、手をばたつかせ泣き顔になる。	
⑥園長は滑り板にいたハエに気づき「大丈夫はらってあげるよ。」とハエを払う。	
⑦A児は、ぱっと表情が変わり滑り台を滑り笑顔になる。	⑦園長が不安を受け止め、取り除いたことで、安定感を取り戻している。
⑧園長は、5歳児に呼ばれ5歳児の保育室に入っていく。 A児は後を付いて行き、保育室の入り口で立ち止まり見ている。 「うーん。」「園長せんせーい。」と入り口から呼ぶ。	⑧園長といたい気持ちを言葉で表している。
⑨A児は、保育室から出て来た園長の後に付いて歩き、透明のコップやペットボトルに水を入れて水遊びをしていた幼児を見て、自分のコップを保育室にとりに行く。 再びベランダに出て水飲み場の水を汲み、水を飲みながら周りの幼児の様子を見る。	⑨偶然目にした幼児の動きに刺激を受け、自分の動きを出している。
⑩A児は保育室に入り、水飲み場で自分と同じようにコップを持っているB児と目が合う。 B児が自分のコップを見せながら、「私、黄色。」と言うと、A児は、「私、ピンク。」と言ってコップを見せる。 B児が「水を飲もう。」と言うと、A児も「水を飲もう。」と言って二人で水を汲み、飲む。	⑩同じようにコップを持っていたことやB児から話かけられたことから、B児に興味をもち、同じ動きをする。
⑪A児は、水を飲んでいて水をこぼす。担任の所へ行き「Aちゃん、お水こぼしたの。」と伝える。 担任はA児に「雑巾でふこうね。」と言う。	⑪困ったことがあったので、担任に伝える。
⑫A児は、雑巾をかけてある場から雑巾を取ってきて、こぼした水を拭き始める。それを見ていたB児も雑巾を取りに行き、一緒に拭き始める。 A児は自分の動きを続けている。	⑫方法が分かると自分で対処しようとする。

⑬A児は「きれいになった。」と言い、雑巾を戻しに行く。

B児が、拭いていなかったところを見付け、指差して「あー。」と言う。B児とA児と目が合い、顔を見合わせ笑い合う。

⑭A児は、コップで床に残った水を広げるようにこする。

B児も、同じようにコップで水を広げるようにこすり、二人で何度か目を合わせて笑う。

A児は「とれた。」と言ってB児を見る。二人で顔を見合わせて笑う。二人ともコップをしまう。



⑬B児と同じ動きをすることの楽しさを感じている。

⑭B児と同じ動きをすることの楽しさを感じている。

⑮B児は、ままごとコーナーに横に向けて置いてあった大きな段ボール箱を見て、「こん中に入ろう。」と中に入る。A児も「いいよ。」と一緒に入る

⑯B児は段ボール箱から出て、スカートをはく。

⑰A児は、エプロンを付けようとするが付けられず、ホールにいた担任のところへ行く。担任に「つけないの。」と聞かれると黙ってうなずき、エプロンを付けてもらってままごとコーナーに戻る。

⑱A児は、エプロンのすそを何度か伸ばし少し困った表情になる。近くにいた教師にエプロンの取り方を示してもらおうと、黙って自分ではずし、周りを見渡す。

⑲それを見ていたB児が「これはきな。」とA児のそばにレースのスカートを投げるが、A児は反応しない。

⑳A児は、床に落ちていたワンピースを見付け、時間をかけて着る。その上からさっきB児が投げたスカートををはく。

㉑A児は、ワンピースとスカートを身に付けることができるとうれしそうに周りを見る。

㉒A児は、急いでホールへ行き、周りを見渡し、保育室に走って戻ると、テラスに出て大きな声で「園長先生。」「園長先生。」「園長先生。」と園長を探す。

⑮B児と一緒にいる楽しさを感じ一緒に動こうとしている。

⑰担任に、手伝ってほしいことを動作で伝えている。

⑱エプロンを付けてみて、自分のイメージしていたものと違うことに気付く。解決方法を示されると自分でやってみる。

⑳なかなか着られないが、あきらめずに最後までやる。

B児の働き掛けにその時は反応しなかったが、受け止めていた。

㉑着ることができた満足感を感じている。

㉒園長に見てもらいたい。

【考察】

A児が経験している内容

・不安を受け止め、援助してくれる園長に信頼感を感じている。

・不安を感じると、言葉より動きで気持ちを表す。

・要求を表情、動作、言葉など色々な方法で表す。

・目に入ったものにかかわって遊ぶ楽しさを感じている。

・困ったことがあった時に、具体的な方法を知らされると、安心して自分から動く。

・何をしたらよいか分かると、できることは自分でしようとする。

・自分なりにやった満足感を感じている。

・偶然かかわった友達に興味をもち、一緒に動くことを楽しんでいる。

・友達からの働き掛けに自分なりに対応する。

経験させたい内容

◎教師との信頼感を基盤に、安心して自分なりの動きをだす。

◎自分なりに表現したことを大人に受け止められる心地よさや、表現する楽しさを知る。

◎好きな遊びを見付け、遊びの楽しさを感じる。



◎自分のしたいことをしながら、友達とかかわる楽しさを感じていく。

教師の役割

- 不安な気持ちを受け止め、その具体的な原因を取り除く。
- 教師とかかわりたい気持ちを受け止め、一対一でかかわれる時間を保障する。
- どのような場面で自分なりの動きを出しているかについて教師間で情報を共有し、かかわり方を工夫する。

- 幼児の思いや要求を教師が言葉にして、表現の仕方を知らせていく。
- 表現したことを受け止められる喜びを繰り返し経験できるよう、様々な表現の方法を知らせ、表現の機会をつくる。

- 一人でいつでもかかわれる遊具や場を設定する。
(小麦粉粘土、水遊び、3歳児専用砂場、ブロック、簡単に身に付けられるお面バンド 等)
- 教師も一緒に遊ぶことで、物へのかかわり方のモデルとなり、遊びの楽しさが感じられるようにする。



- 学級全体の活動で、動きを楽しめる曲や簡単な鬼遊びなどを取り上げ、他の幼児と一緒に動く楽しさを感じられるようにする。
- 友達と同じ場で遊べる場や遊具を設定する。
(ままごとコーナー、牛乳パックで作った囲い 等)
- 教師も一緒に遊ぶことで、それぞれの幼児が同じ場にいる友達とかかわる楽しさを感じている姿に共感する。

事例2 興味をもった場でのかかわりの中で友達存在に気づき始める

(3年保育3歳児6月)

- A児は、入園当初から興味をもったことに自分からかかわることが多かった。興味をもった遊具や場での他の幼児とのかかわりの中で、物の取り合いなどで自分の思いを強く表して衝突することもあった。

幼児の姿と教師のかかわり	分 析
① A児は保育室内のままごとコーナーに行き、弁当箱、箸、油粘土、まな板、麺棒、塩入れを棚から出してテーブルに置き、椅子に座る。	① 使いたい物のあるところが分かり、自分で選んで持っていくことができる。
② A児がまな板の上で粘土を丸めていると、B児、C児も用具を持ってきてテーブルに置き、椅子に座る。	② 言葉には出さないが2人のことを拒否はしていない。
③ A児は塩入れを持って粘土にかける真似をする。それを見て、C児が「貸して。」と言う。A児は「だめ。」と言う。B児も「貸して。」と言うと、A児はB児にも「だめ。」と言う。	③ 家庭生活を具体的な物を使って再現している。
④ C児が「お塩はみんなのだよ。」と言うと、A児は「だめ、あたしのだよ。」と言う。三人それぞれに粘土を丸めたり、のぼしたりし、弁当箱につめる。	④ 自分の使っている物は自分の物と思っている。
⑤ しばらくしてB児が「ピクニックに行こう。」と言って、弁当箱をバッグに入れビニルシートを抱えて出かけようとする。C児も同じように荷物を持って立つ。A児は「私はまだ準備ができていないからだめ。」と言い、B児が持っていたシートを取ろうとする。	⑤ B児、C児と遊んでいるという気持ちを表現している。
⑥ B児が「シートがないと座れない。」と言うと、A児は「汚れるから使っちゃだめなの。」とシートを取り上げ、片付けてしまう。	⑥ 自分だけ置いて行かれるのはいやだと感じている。
⑦ B児は、C児に「自転車を買いに行こう。」と言い、二人で保育室内の三輪車置き場に行く。A児も後を追う。	⑦ 二人と一緒にいたいと感じている。
⑧ 2台しかない三輪車にB児とC児がまたがってしまうと、A児は「私と二人で乗ろうよ。」「後ろに立って乗るから。」などとB児、C児に言うが、二人は「いや。」と言って三輪車に乗ったまま遊戯室へ行ってしまふ。	⑧ 一緒に遊びたい気持ちで働き掛けているが、受け入れてもらえない。
⑨ A児はしばらく二人の後を付いて歩いた後、二人に「あそこにいるね。」と言って、遊戯室にあった二階建てのパネルブロックの家に布団やカセットデッキなどを保育室から持ち込む。	⑨ ままごとのイメージが続いて、二人とのかかわりを続けたいと思っている。

【考察】

A児が経験している内容

・使いたい物のあるところが分かり、自分で使いたい物、自分のイメージにあう物を選んで持ってきている。

・家庭生活を再現することを、楽しんでいる。

・場を変えてもイメージを継続して楽しもうとしている。

・自分の感情を言葉で表している。

・B児、C児と同じ場において、それぞれが動くことで「一緒に遊んでいる。」と感じ始めている。

・物の取り合いをする中で相手の思いが自分とは違うことに気付いている。

経験させたい内容と教師の役割

◎自分がしたいと興味をもった場や玩具で、繰り返し自分なりの動きをして遊ぶことを楽しむ。

○玩具用具の置き場所を一定にし、使いたいと思った物がすぐ使えるようにし、数も多めに用意する。

○幼児が自分なりの動きをして遊ぶ楽しさが感じられるように、教師がモデルとなってイメージを楽しめる玩具の使い方に気付かせたり、幼児がなりきって遊ぶ姿を受け止めて楽しさに共感したりする。

◎自分なりの思いの表現の仕方を知る。

○幼児なりの方法で表現する姿を認め、表現する喜びを感じさせていく。また、教師が幼児の思いを言葉にしていくことで、幼児自身が思いを言葉にすることを意識できるようにする。

◎気に入った幼児、そばにいたいと思う幼児と同じ場で過ごしたり、同じようなことをしたりすることを楽しむ。

○一人でも、二、三人でも腰を落ち着けてゆったり遊べる場を作ることで、周りの幼児と一緒にいることに安定感を感じられるようにする。また、教師もモデルとなって動くことで、同じ場で過ごす快さを知らせていく。

○断片的なかかわりの中で、同じような動きをして面白かったと感じている姿に教師も共感し、言葉にしていくことで、楽しさを知らせていく。

○思い通りにならない時は、幼児の気持ちを受け止めながら代わりになる物を提示したり、イメージに沿った言葉を掛けたりして気分転換が図れるようにする。

事例3 新しく入園した友達とのかかわりの中で自分の思いの出し方を模索する

(3年保育4歳児6月)

- 3年保育のA児は、4月に入園した2年保育の幼児の動きに魅力を感じるとともに、どのようなかかわり方をしたらよいか戸惑いを感じている。3歳時からの友達関係も変化し、園生活にやや不安定な様子が見られる。

幼児の姿と教師のかかわり	分 析
①A児は砂場のそばに立って、視線はスクーターに乗って校庭を走るB児、C児、D児を追っている。	①新しく入園したB児の動きに関心をもっている。
②三人がスクーターに乗って、砂場のそばに来る。B児がC児、D児に「ハリケンジャーになって。」と言うのを聞き、A児は、砂場脇にあったスクーターに乗り三人の後を追う。	②仲間に入りたいと思い、後を追う。
③四人は校庭の水たまりのあるところへ行き、「見て。」と言い合い、一人ずつポーズを取りながらスピードをつけ水たまりの中を走り抜ける。A児だけは、水たまりの周りをゆっくりとスクーターで回り、時々立ち止まって三人の様子を見ている。	③三人がなりきって遊ぶ姿がうらやましく、自分もやってみようとするスピードを出したり水たまりの中央を渡ったりすることに不安がある。
④A児は水たまりの端へ行き、「Cちゃん、ここならできるよ」とC児に向かって言うが返事はない。A児は水たまりの端を走り抜ける。	④思い切ってやってみようとすることを3歳時からの友達のC児に認めてもらいたい。
⑤A児は、次に水たまりの少し内側を走り抜ける。	⑤挑戦しようとする気持ちがでてきた。
⑥A児は、4回目に水たまりの三分の一程内側の所を渡り、「Cちゃん、ちょっとできたよ」と言う。B児、C児、D児は反応せず自分たちの遊びをしている。	⑥勇気を出してやったらできたので、C児に伝えたが、三人からは認められていない。
⑦担任が来る。四人が周りに集まり、一斉に話し掛けるのを担任は相づちをうちながら聞く。A児は自分の靴を指さし、「濡れたよ。」と言って触る。話が終わると担任はその場から去る。	⑦担任に水たまりを渡れたことを認めてもらいたい。
⑧三人は園舎へ戻り、保育室に入る。A児も後をついていくが、保育室前で引き返し砂場へ行く。	⑧スクーターでの遊びで三人と楽しさを共感できなかったので、行動を共にしなかった。
⑨C児が砂場にくると、A児は「新幹線二つ持ってくるから。」と言い、用具置き場へ行く。C児は、「俺のも。」と言って、A児に付いていく。A児は、持ってきた新幹線の一つをC児に渡す。	⑨C児と一緒に遊びたい気持ちを相手の遊具も持ってくることで表す。
⑩A児は新幹線を持って砂場に戻る。C児は新幹線を手で洗い、A児に「きれいでしょ。洗ってくるときれいだよ。」と言う。A児は新幹線を見るが返事しない。	⑩C児の話や動きに目を向けるが、自分は洗おうとは思わない。

⑪ A児が新幹線を手に持って「700系。」と言うと、C児も「700系。」と言い、顔を見合わせる。



⑫ C児が「一緒にいいじゃん。」と言うと、A児も「うん。」とうなずく。

⑬ 二人別々に新幹線を砂の上に走らせ筋を付ける。

⑭ 担任が通り掛かると、A児は、「先生」と呼び掛け、「C君も仲間に入ったんだよ。」と言う。担任は「よかったわね。」と言う。

⑮ E児がやってきて、両手を広げて砂の上にA児が引いた筋（線路）をこすり消していく。A児は「あっ、E君やめて。先生、E君が線路こわした」と言う。

⑯ 担任は「ここ？ほら、こわさないでって。」とE児に言う。E児は何も言わないで去る。

⑰ C児が新幹線の裏の砂の付いている所をA児に見せ、「ねえ、きたない電車になっているよ。」と言う。A児は自分の新幹線を裏返し、「わっ本当だ。」と言い、再び新幹線を走らせ筋をつける。

⑱ C児がじょうろに水を汲んできて、溝ではない所に水を流す。A児は、砂の上に新幹線を走らせ、水の方へ向かい動かしていく。

⑲ C児は水で砂が流れるのを見て、「溶けてる。」と言う。A児は近くにあった大きいシャベルで砂をすくい「雪。」と言いながら、C児の方にまこうとする。

⑳ C児は「やだよ。」と言い、じょうろで水をまきながら、「雨が降ってきました。」と言う。A児は、「C君の雨がやんだら雪が降ってくるの。」と言って、シャベルをじょうろの近くに持っていく。

㉑ C児が「だめ、ここはだめなの。」と言うと、A児は、「他の所にやるの。」と言って、向きを変えて違う所に砂をまく。

⑪ 自分のイメージを相手に伝えている。互いに同じことを言うことで仲間であることを意識している。

⑫ C児は同じものであることを確認し、A児も受け入れている。

⑬ それぞれの思いで遊んでいる。

⑭ C児と遊んでいること、仲間であることを認めてもらいたい。担任はA児の思いを受け止め、共感する。

⑮ E児の行動に対応しきれず、担任に不安を訴える。

⑯ 担任はA児の思いをE児に伝える。

⑰ C児の言葉を受け入れ、共感する。

⑱ それぞれの思いで動いて遊んでいる

⑲ C児の言葉から浮かんだイメージを動きに表す。

⑳ C児と思いが違うことを感じるが、自分の思いとつなげようと理由付けをする。

㉑ C児とつながりをもつために自分の思いを変えて動いている。

【考察】

A児が経験している内容

- ・慣れ親しんだ環境には安心してかかわり、自分なりのイメージをもって遊びを楽しむ。

- ・3歳時からかかわりのあるC児と一緒にいることに安心感をもっている。

- ・C児の言動を意識しているが、思いを伝えたり、受け止め合うことが十分できず、遊びのイメージが重なりにくい。

- ・4月に入園したB児の動きに関心をもち、新しい遊びに興味をもち始める。

- ・友達のをまねて、自分もやってみようとするがまだ十分満足感を得られていない。

- ・4月に入園したE児の動きに対応できず、不安を感じている。

経験させたい内容

- ◎安心できる場で、自分のしたい遊びを十分に楽しむ楽しさを感じる。

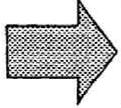
- ◎一緒にいて安心できる友達と互いの思いを出し合いながら遊びを楽しむ。



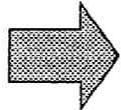
- ◎興味をもった新しい遊びに自分なりに取り組む楽しさを感じる

- ◎興味をもった遊びにかかわる中で、新たな友達とのかかわり方に気付いていく。

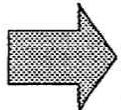
教師の役割



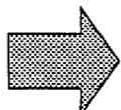
- 砂場に興味をもっているので、トンネル、山、川などのイメージを具体的に表現できる素材を提示し、イメージに合う物を取り入れていかれるようにする。
- 室内にも興味をもっている乗り物で遊んだり、イメージを具体的に作ったりできるように、遊具、素材、用具を設定したり、提示したりする。
- 教師も仲間になって遊ぶことで、遊び方を知らせたり、楽しさを共感したりする。



- それぞれの幼児のイメージを具体的に言葉や形に表すことで、相手の思いに気付かせ、イメージが重なる楽しさに共感する。
- 相手に気持ちを伝えている姿を受け止め、思いを表現する喜びを感じられるようにする。



- 遊びの中で、体の動かし方、遊びのコツを知らせ、自分でできた喜びが感じられるようにする。
- 挑戦しようとする気持ちや、できた喜びを受け止め、共感していく。



- 遊びの仲間として加わり、遊び方やそれぞれの幼児の思いを言葉にし、互いの思いが感じられるようにする。
- 教師が仲立ちして、かかわりをもった友達に自分の気持ちを伝え、受け止められる実感をもてるようにする。

事例4 友達とかかわる楽しさを感じ、相手の言動を受け止めようとする

(2年保育4歳児10月)

- A児は、一学期は自分の思いのままに行動し、周りにいる人の動きや言葉を受け止めず、時には、大声を出して走り回ることがあった。周りの幼児が嫌がると、さらにやってしまうこともあった。二学期になり、友達と一緒に遊ぶ楽しさを感じるようになってきた。

幼児の姿と教師のかかわり	分 析
①A児は、登園したばかりのB児に「行こう。」と言い、二人で校庭の朝礼台の下に入り、座る。	①前日、朝礼台を船に見立て、B児、C児の三人で遊んだので、今日も遊ぼうと声を掛けた。
②担任が朝礼台の下をのぞくと、A児が「ここ、運転する所。」と言う。	②③自分のイメージしたことを担任に話す。
③担任が、朝礼台を指して「これは、なあに。」と聞くと、A児は「船。」と言う。	④B児の動きを見て、自分も同じようにしようとする。
④B児が保育室前に置いてあるゴザを持ってきて朝礼台の上に敷くのを見て、A児もゴザを持ってきて朝礼台の上に敷く。	⑤前日一緒に遊んだC児は仲間という気持ちがあり、C児の言葉を聞いて動く。
⑤C児が来て、A児のゴザを指さし、「Aちゃん、下に敷いて。」と言うと、A児はゴザを朝礼台の下に敷く。	⑥室内のイメージで靴を脱ぎ、靴を置く場を決める。B児、C児も受け入れて、同じように動いていると感じている。
⑥A児、B児、C児が朝礼台の下に入りゴザの上に座る。A児は靴を脱いで、朝礼台の階段の所に置く。B児、C児もそれを見て、靴を脱いでA児の靴の隣に置く。A児は二人の動きを見ている。	⑦黙って保育室に行ったB児、C児の動きが気になる。
⑦C児が「あっ、忘れ物。」と言って保育室に行くと、B児も付いて行く。A児も二人の後から保育室に入る。	⑧二人のしていることが分からなかったなので、聞く。
⑧B児、C児が製作コーナーに行ってお何か作り始める。A児は「何やっているの。」と二人に聞く。	⑨B児の言葉を聞き、自分もしようと思う。
⑨B児が「あめ作っているの。」と答えると、A児は「僕も。」と言う。	⑩B児と同じ材料を使えばできると考え、自分のやり方で作る。
⑩A児は「ポケットに三つある。」と言ってドングリを出し、セロハンをドングリにかぶせ、手で握ってぐちゃぐちゃに丸める。	⑪B児と同じように作りたいと思い、B児の動きをよく見ている。
⑪A児の様子を見て、B児は「Aちゃん、作り方教えてあげる。ドングリを置いて、それでこうやるの。」と言い、セロハンでドングリを巻き、両端をねじってみせる。A児はじっとB児を見ている。	⑫B児と同じように作りたい。
⑫A児は「わかった。」と言って、B児のやったとおり丁寧にセロハンをドングリに巻いてねじる。	⑬うまくできたので、満足している。
⑬A児は、朝礼台に戻り、セロハンをむいてドングリを口に入れて、食べるまねをする。	

<p>⑭ B児、C児も朝礼台に戻ってくると、A児は「船は火事なの。」と言ってゴザを朝礼台の隣に敷き、三人の靴をその上に並べる。</p>	<p>⑭ 自分のイメージで、友達靴も場所を移動しようとする。</p>
<p>⑮ C児は「いや。」と言って、靴を元の場所に戻す。A児は「船は火事だから燃えちゃう。」と言い、また靴をゴザに置く。C児は「いや。」と言って、靴に戻す。このやり取りを何回か繰り返す。</p>	<p>⑮ 自分のイメージをC児が受け入れないので、理由を話して、動かそうとする。</p>
<p>⑯ A児は何も言わず、自分の靴だけゴザに置く。</p>	<p>⑯ C児に自分の考えが受け入れてもらえないと感じ、自分の靴だけ動かす。</p>

【考察】

A児が経験している内容

・ 友達の言動に関心をもち、興味をもったことを受け入れて遊ぶ楽しさに気付いてきている。

・ 一緒に遊ぶ仲間と感じている友達に自分の思いを自分なりのやり方で伝えようとする。

・ 自分の思いが相手に受け入れられないと、自分なりに気持ちを調整して行動しようとする。

・ イメージしたことを自分なりに考えてやってみようとする。

経験させたい内容と教師の役割

◎ 友達の言葉や動きやイメージを受けて、自分のイメージをふくらませたり、遊び方を知ったりすることで遊びがより楽しくなることを感じる。

○ 幼児同士の伝え合いだけでは十分に伝わらない場合は遊びの中に入って、それぞれのイメージや遊び方を伝えたり、相手の思いに気付かせたりする。

◎ 友達と一緒に遊びたいという気持ちから、相手の言葉や動きを感じ取って、自分の思いの表現の仕方を変えていこうとする。

○ 相手の気持ちを感じ取って自分の出し方を変えていこうとする姿を認めたり、相手に受け入れられたことを意識させたりする。

○ 互いにイメージが合わないときは、それぞれのイメージをつないだり、流れを作ったりする。

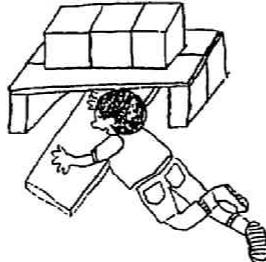
◎ 自分のしたいことに取り組み、自分なりに考えて実現する喜びを感じる。

○ どんな思いやイメージをもっているかを受け止め、状況に応じて素材や方法を提示し、取り組みの姿を認める。

事例5 相手の思いにかかわりなく自分の思いを出していた幼児が、友達のよさを感じながら自分の思いを実現していくことを楽しむようになる（3年保育5歳児6月～9月）

○ A児は、アイデアが豊かで自分なりに工夫して遊ぶが、遊びの中で友達の思いにかかわりなく、自分の思いを強く主張し、遊びの楽しさを共感することが少ない。

① 相手の言動にかかわりなく、自分の思いを出す（3年保育5歳児6月）

幼児の姿と教師のかかわり	分 析
<p>①遊戯室でB児、C児、D児が大型箱積み木を運んで組み立てている。E児が来て、B児に「入れて。」と言う。B児は、「いいよ。」と答える。二人で板積み木を運び、並べた積み木の上にかぶせる。</p>	<p>①イメージを確かめ合っていないが、B児が積み木で何を作ろうとしているか、E児は分かっているようである。</p>
<p>②A児が来てボールを持ったまま、黙って積み木を運び始める。</p>	<p>②やり取りなくその場に入る。</p>
<p>③担任が「仲間に入っているの？ボール置いてくれば。」と言うと、A児は、「うん。」と言ってボールを置いてきて、積み木を運ぶ。他の幼児はそれを見ているが何も言わない。</p>	<p>③担任は、A児が仲間として遊ぶ気持ちがあるか確かめた。</p>
<p>④A児はくずれそうな板積み木を積み直し、「忍者のうちを作るんだよ。」と担任に言う。</p>	<p>④自分のイメージで動く。</p>
<p>⑤担任が「Cちゃんはアシカって言ってるけど。」と言うと、A児は、「下がアシカで上が忍者。」と言って、迷路の上にふたをかぶせるように板積み木を積んでいく。他の幼児は黙って積み木を運んでいる。</p>	<p>⑤担任は、他の幼児の遊びのイメージをA児に伝えたい。他の幼児は、A児のイメージが自分たちと違っていることについて何も言わない。</p>
<p>⑥C児はキャスター付きの大きなブロックをつなぎ、腹ばいになって乗る。担任が、「おもしろいね。アシカ迷路みたいね。ここはふさがっているけど。」と言うと、C児はブロックの上に腹ばいになって乗り、板積み木の下をくぐる。</p>	<p>⑥C児は、昨日遊んだアシカごっここのイメージで動く。担任はC児のイメージを他の幼児に伝える。</p>
<p>⑦A児が、袋小路になった場所を指して、「ここがスタート。」と言うが、他の幼児が何も言わない。</p>	<p>⑦A児は考えたことを言葉に表すが、他の幼児は受け止めていない。</p>
<p>⑧A児は、一人で次々と積み木を運ぶ。担任が行き止まりになっている場所を指して、「行き止まりになっちゃうね。」と言う。</p>	<p>⑧A児は担任の言葉から自分なりの遊び方を思い付く。</p>
<p>⑨A児は「行き止まりにしよう。ひひひ。D君持って。」とD児に声を掛け、板積み木を運び、他の幼児が作った迷路の上に全部ふたをする。</p>	
<p></p>	
<p>⑩担任が「トンネルばかりだね。」と言うと、A児は板の上で考える。</p>	<p>⑩担任は、A児に他の幼児の遊び方を意識させたい。</p>
<p>⑪他の幼児がブロックに乗って、ふたをした迷路の中を次々とすべる。A児は、「かんかんかん。」と言いながら、一人が通るたびに行き止まりになっている場所の積み木を開け閉めする。</p>	<p>⑪A児は自分なりに他の幼児とのかかわり方を思い付く。</p>

⑫B児が板の上に上がってくると、A児は「やめて。」と言う。B児は何も言わずに下に降りる。	⑫他の幼児が自分の場に入ること
⑬B児とC児が同時にブロックに乗って滑ったため、積み木がくずれる。A児は、「やめてよね。」と言う。B児、C児は何も言わない。	⑬B児、C児はA児に自分の気持ちを伝えていない。

【考察】

A児が経験している内容

・考えたことを遊具等を使って自分なりに実現しようとする。

・同じ場にいても、友達の動きにかかわりなく、自分の思いだけを実現しようとする。

・教師の言葉に対して、自分にとって必要なところだけ受け入れる。

・自分の遊びの場に友達が入ってくることを拒否する。



経験させたい内容と教師の役割

◎友達とかかわることで遊びがより楽しくなることを感じる。

- 遊びの場面でそれぞれの幼児の思いを受け止め、どうしたら実現できるかを一緒に考える。
- A児のアイデアのおもしろさや工夫を他の幼児に伝えるとともに、他の幼児の遊びのおもしろさをA児に伝え、互いに関心がもてるようにする。
- 学級全体で取り組む活動の中で、遊び方を友達と一緒に考える場面をつくり、それぞれの幼児のよさを取り上げ、互いに気付くようにする。

◎自分の思いを言葉で伝えたり、相手の思いを聞いたりして遊びを進めていく楽しさを味わう。

- 教師も仲間に入り、同じ場で遊ぶ友達と互いのイメージが伝わり合うよう言葉を掛けたり、それぞれの動きを言葉にしたりして、やり取りのおもしろさを感じながら、一緒に遊んでいるという意識をもたせる。
- 互いのイメージが重ならず遊びがうまく進まない場合には、互いに何をしたいかをはっきりさせ、それぞれの思いを実現できる方法を一緒に考えられるよう仲立ちをする。
- 遊びの中でイメージが広がるような言葉を掛けたり、魅力的な素材を提示したりして、遊びの目的をもって取り組めるようにする。

- 6月の考察を踏まえて、担任の教師は、A児が友達とかかわって遊ぶ楽しさを感じられる機会をつくり、その中でA児のイメージの豊かさや物を作るアイデアの面白さを受け止め、それが他の幼児に伝わるよう援助した。

一学期末になって、A児が自分から友達に働き掛けるようになり、様々な葛藤を経て、口数は少ないが穏やかに友達と接するE児と一緒に過ごすことが多くなった。

- ② かかわりの中で友達のよさを感じ、共に遊びを楽しもうとする。(3年保育5歳児9月)

幼児の姿と教師のかかわり	分 析
①保育室で、A児が「ねえ、忍者屋敷作ろうよ。」とE児に言う。	①自分のしたい遊びがはっきりしていて、一緒に遊ぶ友達を誘っている。
E児が「うん、何で作る。」と聞くと、A児は「これ。」と言って、ゲームボックスを指さす。	
②二人でゲームボックスを運んでいると、F児、G児、H児がやってくる。	②興味をもって遊びに加わってきた友達を受け入れる。
A児が「忍者屋敷だよ。やる。」と聞くと、三人が「僕もいれて。」と言う。A児は「いいよ。」と言い、「階段も作ろう。」と積木を運び始める。	遊びのイメージや思い付いたことを友達に伝える。
③A児の置いたゲームボックスの上にF児が別のゲームボックスを乗せようとする、A児は「ここは僕のところ。」と言う。	③自分の居場所を確保しようと、友達を拒否するが、別の友達が相手を受け入れている様子を見ている。
それを見ていたE児が自分のゲームボックスを指し、「ここ、いいよ。下が僕で上がF君ね。」と言う。A児はそのやりとりを見ている。	
④担任が来て、「大きな忍者屋敷ができたね。」と言うと、それぞれの幼児が「ここは僕のところ。」等と言う。	④それぞれ、自分の居場所を担任に伝える。
⑤担任が「みんな、自分の場所があるんだ。」と言うと、H児がゲームボックスの横の穴を指差し、「ここ見えちゃうから暗くしたい。」と担任に言う。担任はH児たちと一緒に布や板段ボールなどを探し、持ってくる。	⑤担任は、H児の考えたことが実現できるように、必要な素材と一緒に探す。
⑥それぞれ布や板段ボールを選び、ゲームボックスの大きさに合わせてハサミで切り、ガムテープで付ける。A児も布を選び、作り始める。	⑥友達のアイデアを取り入れ、担任の提示した素材を利用する。
⑦A児は、切った布をゲームボックスに付けようとするが、一人ではうまく付けられない。それを見たE児が、「持ってやろうか。」と言って、布を押さえる。A児は、ガムテープを切って布をゲームボックスに貼っていく。	⑦一人ではできないことに友達が手を貸してくれたので、実現できることを感じている。
⑧担任が、「A君よかったね、E君が押さえてくれて。」と言うと、A児は「うん。」とうなずく。	⑧担任は、A児が感じた友達への信頼感に共感する。

⑨ E児が、「僕も付けるから、A君押さえていてよ。」と言うと、A児は布を押さえて、E児を手伝う。

⑩ 忍者屋敷を作っていた幼児たちが、忍者の巻物を作って修行ごっこを始める。(壁歩き、側転、早走り、跳び箱、縄跳び など)

I児が「1番目の修行は壁歩き。」と仲間に声を掛け、壁の手すりを渡る遊びを始める。A児もやるが途中で落ちる。また始めからやり直す。I児が「全員合格、次は側転。」と言うと、それぞれ側転を始める。

A児もやるが、うまくできない。友達の様子を見ていたF児が「はい、みんな上手です。その次は…」と言う。

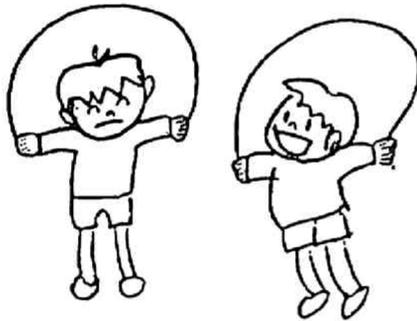
⑪ 縄跳びを始めると、A児は縄を取りにいかない。担任が「あれ、A君はやらないの。修行しないといつまでも跳べないよ。」と言うと、F児が「そうだよ。」と言う。

⑫ 担任が、「がんばってやってみよう。」と言うと、A児は縄を持ってきて跳び始めるが、うまく跳べない。J児が「A君、足をこうやってそろえるといいんだよ。」と教えると、何度も繰り返す。

⑬ J児がE児に「そう、E君のは足がそろっている。」と教えている様子を、A児は時折見る。

⑭ A児はJ児に言われた通りに何回も試してみる。

⑮ 担任が「J君、A君の跳び方はどう。」と言うと、J児はA児の様子を見て、「そうそれでいい。」と言う。A児は一生懸命に跳ぶ練習を繰り返す。



⑨ 自分を助けてくれたことで親しみを感じ、友達の要求を素直に受け入れている。

⑩ 友達の動きをまねて、一緒に動くことを楽しんでいる。

A児には苦手な遊びもあるが、F児、I児の言葉に安心して取り組んでいる。

⑪ 縄跳びができないA児は、やろうとしない。担任や友達に促され、友達と一緒に遊びたい気持ちから、仕方なく縄を取りに行く。

⑫ 友達に跳び方を教えられ、その通りにやってみようとする

⑬ A児は、J児にほめられているE児がうらやましい。

⑭ 自分も友達に認められたい。

⑮ 担任は、友達に認められたいA児の気持ちを感じ取って、J児の言葉を促す。

A児は、認められたことで意欲をもつ。

【考察】

A児が経験している内容

・自分の遊びに加わってくる友達を受け入れ、つながりを感じて遊んでいる。

・友達の考えた遊び方を受け入れ、一緒に動いて遊ぶ楽しさを感じている。

・自分の気持ちを受け入れ、励ましたり、認めたりしてくれる友達とのかかわりに安心感や喜びを感じている。

自分のやりたい遊びに目当てをもって取り組んでいる

・苦手なことにも挑戦しようとする。

経験させたい内容と教師の役割

◎友達の中で自分の思いやイメージを出し合いながら、共通の目的に向かって一緒に遊びを進めていく楽しさを味わう。

○自分たちで遊びを進めていけるように遊び方を確認したり、イメージに合った素材を提示したりする。

◎友達や教師、周囲の環境とかかわり、試したり、気付いたりしながら、自分なりに考えて遊びを進めていこうとする。

○一人一人のアイディアや考えを認めて取り上げたり、伝えたりして友達の取り組みに関心をもたせていく。

◎友達と遊びを楽しく進めていくためには、互いに自分の思いの出し方を調整し、よりよい方法を友達と一緒に考えようとする。

○E児が忍者屋敷作りで相手の思いを受け入れている姿などを認め、その姿をモデルとして互いの気持ちの受け止め方に気付くようにする。

○友達のことを思いやったり、励ましたりする気持ちや行動を大切に受け止め、快感情を味わう機会をつくる友達とのつながりを感じながら互いに受け止め合う喜びを感じている姿に共感し、友達への信頼感を深めていくことができるようにする。

◎自分なりの目的に向かって試したり工夫したりしながら最後まで取り組み、達成した喜びを味わう。

○友達の言動に刺激を受け、自分なりに課題をもって挑戦しようとする姿を認め、励ます。

Ⅲ まとめと今後の課題

1 主題に迫る教師の役割

研究を進めていく中で、発達の状況や特性などによって、幼児一人一人の遊びの楽しみ方や実現しようとする思いはそれぞれに違っていることを改めて確認した。幼稚園という環境の中で、大人や同年齢、異年齢の幼児と出会い、かかわり合い、その中でしか味わえない喜びや葛藤を経験しながら、それぞれのやり方で思いを実現しようとしていることが分かった。

教師が幼児一人一人の心の奥底にある思いを理解し、幼児が友達との遊びを楽しむ中で互いの思いを実現していくためにどのような役割を果たすべきか、次のように考えた。

(1) 幼児が物や人との出会いの中で他者の存在に気づき、楽しさを感じながら自分の思いを実現していくための教師の役割

幼児が新しい環境や人との出会いに不安を感じている時、その不安を解消し安心して園生活を過ごせるようになるためには、教師との信頼関係が基礎となる。それを基に、自分の思いを出したり周囲に働き掛けたりしながら、自分の思いを実現しようとするようになる。

○教師との信頼関係を築き、安心して自分なりに思いを表して動けるようになるために。

- ・一人一人が感じる不安を受け止め、教師が取り除いたり、具体的な方法を示したりして一人一人に合わせたかかわり方で安心して自分の思いを出していられるようにする。
- ・幼児の思いを教師が受け止め言葉に表して、表現の仕方を示していく。

○幼児自身が自ら環境にかかわろうとするようになるために。

- ・かかわりやすい物を一定の場所に設定し、遊びを繰り返し楽しめる場を保証していく。また、それぞれの幼児が自分なりの遊び方が出来るような数や量の遊具を用意しておく。

○自分のしたいことを楽しみながら他の幼児の存在に気づき、楽しさを感じられるようになるために。

- ・教師と共に楽しむ共通の遊びを学級の中に取り入れたり、教師も一緒に遊ぶことを楽しんだりしながら、同じような動きを共通経験することで学級の友達と一緒に過ごす楽しさの経験を積み重ねられるようにしていく。
- ・思い通りにならないときには、思いを十分に受け止めながら、思いの実現により近い物を提示したり気分を変えて遊び出せるようにしていく。

(2) 幼児が友達とのかかわりの中で互いに刺激し合い、遊びを変化させながら思いを実現していくための教師の役割

友達との遊びの楽しさを感じられるようになってくると、友達への関心が高まり、友達の言動を意識するようになる。また、友達の言動に刺激を受けて思いを変え、言動の表し方を変えながら、自分の思いを実現しようとしていくようになる。

○生活環境が変化しても、安定できる場で友達との遊びを楽しめるようになるために。

- ・進級して教師や学級に新しい仲間が増えるなどの環境の変化の中でも、これまで親しんだ遊具を設定するなど、幼児がいつも安心して遊べる場を保証していく。
- ・教師と一緒に遊びの仲間になって遊びながら信頼関係を深めていき、安心して自分を出していられるようにしていく。
- ・一人一人の幼児の遊びの傾向や関心の対象などをよく理解し、友達とのかかわりが生まれ

るような遊具や素材を用意し、遊び込めるようにしていく。

○友達の言動に関心を持ち、自分もやりたいという思いを実現していくために。

- ・友達と同じことが出来る場や遊具を設定するとともに、必要に応じて、やり方やコツなどを伝え、満足感をもてるようにしていく。
- ・幼児の思いを受け止めて励ましたり、やり遂げた喜びを共感したり認めたりしていく。

○一緒に遊びたい友達と遊ぶ中で、相手の言動を感じ取ったり、自分の思いを受け止めてもらったりする喜びを味わえるようにするために。

- ・教師が一人一人の思いを言葉にして幼児同士が気付くようにしていく。
- ・友達の思いを受け止める姿を認めたり、友達の受け止められた喜びに共感したりして、思いが伝わっていく喜びを繰り返し経験できるようにする。
- ・自分の思いを受け止めてもらえないという事実を受け入れ乗り越えていくように、葛藤している幼児に共感し、励ましたり慰めたりしながら気分転換できるようにしていく。

(3) 幼児が互いのよさに気づき、補い合ったり助け合ったりしながら互いの思いを実現していくための教師の役割

幼児が互いに自分の思いを出し相手に伝えながら遊ぶ楽しさを感じられるようになってくると、自分の思い通りにならないことやイメージのくい違いなどから、葛藤場面もでてくる。

そして、遊びを楽しむために、互いに思いを伝え合ったり、それぞれの考えを調整したりして、自分の気持ちをコントロールするようになる。

○幼児同士が互いの思いを伝え合い、遊びが進んでいく楽しさを味わえるようになるために

- ・自分の考えを友達に伝えようとする姿や話を聞こうとする姿を認め、伝え合う楽しさに共感しながら話の内容に沿った素材や遊具を提示したり、場の使い方などを提案したりしてそれぞれの幼児の思いが実現していくようにする。
- ・教師が遊びの仲間に入って、イメージの違いや伝え合いの不十分なところなどについて気付いたことを言葉にして、幼児同士仲間として遊んでいるという意識がもてるようにしていく。

○相手の思いと、自分の考えとの違いを受け止めながら互いが納得のいくように解決していくようになるために。

- ・人を思いやったり、励まし合ったりする気持ちや行動を常日頃から認め、友達とかかわる心地よさを言葉にして、意識させていく。
- ・意見のくい違いがあった時に、何を実現したいかを確認して前向きに考える方向付けをしていく。

2 今後の課題

研究の中で、幼児の思いを実現していくための教師の基本的な役割をとらえることができた。しかし、個々の教師の取り組みだけではできることに限界があることも痛感した。

今後は、園全体の教師が一人一人の幼児についての共通理解を深めるための情報の共有化の工夫、幼児の活動の場面に応じた役割分担の在り方など、教師の協力体制の在り方についてさらに研究を深めていきたい。